

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K10757

研究課題名（和文）看護師間コミュニケーションの定量化と可視化に基づく離職防止対策と教育的課題

研究課題名（英文）Attrition prevention measures and educational issues based on quantification and visualization of communication between nurses

研究代表者

久米 弥寿子（KUME, Yasuko）

武庫川女子大学・看護学部・教授

研究者番号：30273634

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、看護実践場面における看護師間及び演習場面における看護学生間のコミュニケーションの量や構造を可視化分析ツール使用により明らかにし、各集団のコミュニケーションの特徴を抽出した。日勤帯の看護師12名を分析対象とした測定では、聞き手の時間が長い場合と発言者・聞き手の両方が同じ場合等の3パターンに分類され、コミュニケーション構造では、一部を中心としたネットワーク図が示された。看護学生の演習場面の測定では、55名を対象とし、発言者・聞き手の時間は大きな差がなく、全体のコミュニケーション時間に違いがあり、コミュニケーション構造では、1) 同一、2) 一部中心、3) 円形、4) 連結なしに分類された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、看護実践場面における看護師間の対面コミュニケーションの実態について、量的分析と構造化に向けて探究し、可視化することができた。特に、看護間のコミュニケーションは、対話時間や発言者が聞き手であるのが可視化され、業務上でのコミュニケーションの状況やメンバー間の役割上で必要とされるコミュニケーションの在り方などを確認することができた。また、学生の演習場面におけるコミュニケーションについては、グループメンバー間のコミュニケーションの量や構造の可視化から、コミュニケーション時間の差や構造的なつながりの違いが明らかになり、個々の学生へのより丁寧な観察や個別性への配慮が必要なことが示唆された。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to quantify and visualize the communication between nurses in nursing practice settings and nursing students in training settings using visualization analysis tools and extract the characteristics of communication in each group. Measurements of 12 nurses working day shifts were analyzed and classified into three patterns; as the listener spent a long time and as the speaker and listener were the same. A network diagram about a certain part was shown for the communication structure. Measurements of 55 nursing students in training settings were conducted. There was no significant difference between the speaker and listener time; however, there was a difference in the overall communication time. The communication structure was classified into same, part-centered, circular, and no connection.

研究分野：基礎看護学

キーワード：看護師 対面コミュニケーション 看護学生 看護実践場面 演習場面 可視化 構造化

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

臨床現場で勤務する看護師間のコミュニケーションは、昨今の在院日数の短縮化や医療の高度化、様々な教育歴の看護師が協働するなど複雑な状況下で展開されている。また、看護師の離職率は、ここ数年ほど10.9%前後と横ばいではある(日本看護協会,2017)が、18歳人口の減少により、人材確保及び看護の質の保証という観点からも看護師の就業及びその継続を維持することは不可欠である。一方、看護学生の就職先の選択理由では、「職場の雰囲気良さ」「教育体制」などがあがり、看護師のバーンアウトや就業満足度に看護師間のコミュニケーションが影響していることは報告されている(塚本ら,2009;佐藤ら,2017)。

以上のように、看護師間のコミュニケーションの重要性は指摘され、特に新人看護師の就職後、早期からのスタッフの関わりが必要であることは指摘されているものの、どのようなコミュニケーションが実際に行われており、どのようなチームワーク状況で職務満足感につながっているのかという具体的な実態は把握されてこなかった。それは、多忙で特殊な看護師間のコミュニケーションという特性と従来の量的把握を目的とする研究手法がプライベートへの配慮の点で研究への着手を困難にしていた側面がある。

しかし、実際のコミュニケーションの量的・客観的・具体的な実態把握ができれば、看護学生に対するチームワークでのコミュニケーション教育の実態に即した方策や、新人看護師やリーダー看護師が意識するコミュニケーションの取り方が具体的に明確化でき、就業の維持と離職防止対策につながると考える。

そこで、看護業務の多忙さや業務の性質上の課題に対して、小型・軽量の名札型センサーの使用と会話内容は測定せずにコミュニケーション時間や方向性等のみを把握可能な測定ツール・日立ハイテック社製のビジネス顕微鏡の看護実践場面への活用は、画期的で新規性の高い手法である。実際の看護師間のコミュニケーションを量的に測定することに挑戦し、就業につながる教育的支援と早期離職を防止するための具体的な対策が求められている。

### 2. 研究の目的

本研究では、看護実践場面での看護師間で行われる対面的コミュニケーションを量的可視化可能な定量分析ツールを用い、(1)看護師間のコミュニケーションの量や構造を明らかにすることに加え、(2)看護師間のチームワーク状況や職務満足度を明らかにし、(3)看護師間のコミュニケーションの量や構造とチームワーク状況や職務満足度の関連性分析を行う。これにより、早期離職を防止するための看護師間の対面的・双方向性コミュニケーションの特徴を明らかにする。さらに、(4)グループ演習形式での授業時の看護学生間のコミュニケーションの量や構造を明らかにすることにより、看護学生のコミュニケーションの特徴と課題を検討する。以上を踏まえ、最終的には、(5)看護師間及び看護学生のコミュニケーションの現状分析から、新人看護師の早期離職を防止するためのスタッフ間コミュニケーションのモデル化とそれにつながる看護基礎教育におけるコミュニケーション技術教育のあり方を検討する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 研究対象者

研究参加に同意を得られた看護師の集団を測定対象とする。測定する集団の単位は、病棟単位を基本的な対象集団とし、1回の測定対象単位を看護師5名~10名程度の集団を対象とする。また、組織的なチームワークを見るために、看護師長やチームリーダーなどのリーダー役割を担う看護師を含む対象とする。看護系大学の看護学生間の調査では、看護師のチーム単位での実践場面に近い複数の相互作用が生じるグループ演習場面で測定する。

#### (2) データ収集方法

コミュニケーションの量と構造の測定：測定機器は、日立ハイテック社のビジネス顕微鏡システムの機器である名札型の小型・軽量の赤外線センサーの使用、あるいは対面検知アプリを搭載した小型スマートフォン(SIMフリー)を使用する。本測定システムは、赤外線センサーあるいは対面検知アプリのデータを集約する機器やパソコンで構成され、コミュニケーションの量や構造を可視化できる定量化ツールである。看護師対象の測定では、勤務開始時の業務に支障のない時間に携帯してもらい、業務終了時に回収する。看護学生の測定では、グループ演習開始前に装着してもらい、演習終了時に回収する。チームワーク状況と職務満足調査：チームワーク状況は、三沢ら(2009)による看護師版チームワーク測定尺度を用い、安達(1998)の職務満足度尺度を用いて測定する。看護業務負担を考慮し、負担のないタイミングを依頼し、別途、封入ID番号化して回収とする。

#### (3) 分析方法

コミュニケーションの量的分析では、対面時間、発言者が聞き手であるのかの時間、加速度から見た活発度等を分析し、加えてチームワーク測定尺度や職務満足度尺度の下位尺度との順位偏相関係数を算出して、その関連性を分析する。コミュニケーションの構造についての分析では、ビジネス顕微鏡の分析システムを活用し、測定期間内の組織ネットワーク図を表示して、リーダーの位置やネットワークの密度や位置関係などからその特徴を考察する。

#### 4. 研究成果

##### (1) 看護師間及び看護学生間のコミュニケーションの量的・構造的分析

看護師間のコミュニケーションについては、研究協力に同意の得られた A 中規模病院の 2 病棟 (B 病棟 7 名、C 病棟 7 名) の看護師 14 名に依頼し、データ計測が確実に行われた 12 名の看護師の日勤帯の時間の対面コミュニケーションを分析対象とした。看護師間コミュニケーションの量的分析については、まず対面時間の発言者が聞き手であるかの時間の分析を行った。図 1 では、C 病棟についての累積時間における発言者 (speaker) の時間と聞き手 (listener) の累積時間を示した。それらの結果、全体のコミュニケーション時間が長く、聞き手の時間が長い場合、全体のコミュニケーション時間が長く、発言者・聞き手の両方が同じ場合、全体のコミュニケーション時間は比較的少なく、発言者の時間が若干多い場合の 3 つのパターンに分類された。

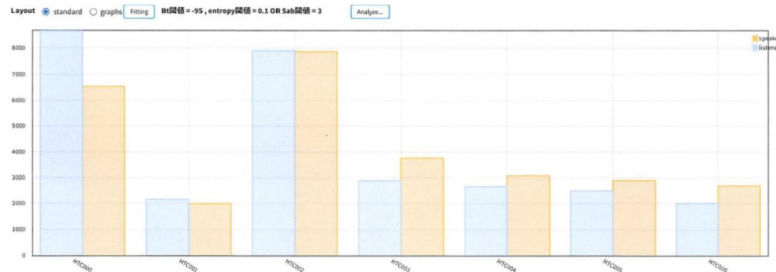


図 1 看護師間コミュニケーションの発言時間と聞き手時間 (C 病棟)

コミュニケーション構造については、ネットワーク図の構造から、当日のリーダー役 1 名あるいは 2 名を中心に他のメンバーがつながるパターンが特徴的であった。対面ネットワーク図から、発言者が複数いる場面、発言者と聞き手とその他対面者がいる場面、同時に発言者がいる場面、1 名が複数名の発言者の聞き手になっている場面などが見られた (図 2)。

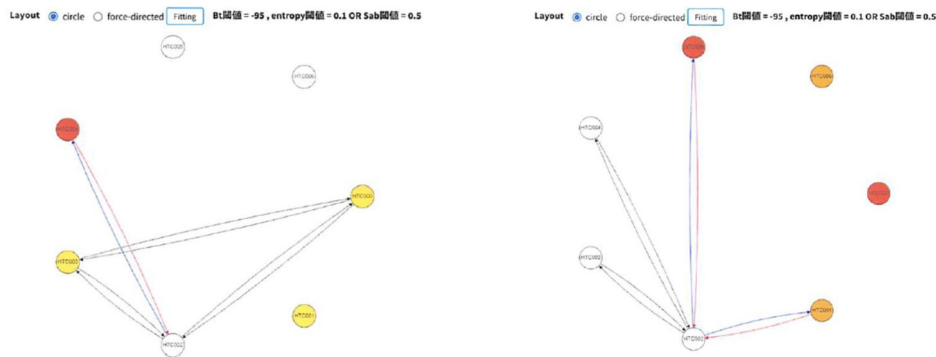


図 2 看護師間コミュニケーションのネットワーク図の例

看護学生の演習場面の測定では、74 名のうち同意の得られた 55 名を対象とし、発言者・聞き手の時間はあまり差がなく、全体の時間で多い者と少ない者で違いがあった。ネットワーク図の構造から、3~4 名のグループ間で、構成メンバーが同じようにつながっている場合、メンバーのうちの一部とつながっている場合、1 名の学生を中心とした場合、他の学生とのつながりのない場合があった (図 3)。

看護師間・看護学生間の発言者時間等とチームワーク測定・職務満足度尺度の関連性は明確には認められなかった。

以上の結果より、看護師間のコミュニケーションにおいては、リーダー役割等を担う位置づけの者が中心として、他のメンバーが報告を行うような状況があることが推察され、業務上での必要不可欠な対面的コミュニケーションが図られていることが考えられた。看護学生のコミュニケーションにおいては、個人差が見受けられ、全員が対面的コミュニケーションを双方向的に行っていない可能性が示唆された。

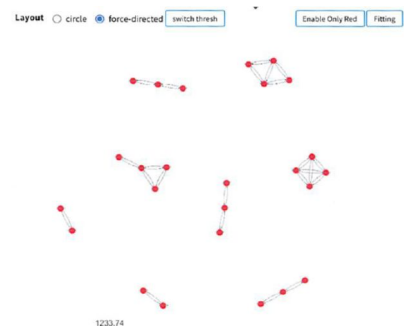


図 3 看護学生間コミュニケーションのネットワーク図の例

##### (2) 看護師間及び看護学生間コミュニケーションの特徴と今後の教育的課題

看護師間コミュニケーションでは、チームとしてのコミュニケーションの在り方を推測できる構造が見受けられ、新人看護師も含む組織内コミュニケーションの重要性が再認識された。看護学生間のコミュニケーションにおいては、教育の場での対面的コミュニケーションが一部の学生で行われている状況が明らかになり、集団内コミュニケーションに個人差が生じることへの教育的配慮が必要であり、より丁寧な個別の学生の観察や支援が求められていると考える。また集団内コミュニケーションを苦手としている可能性も示唆され、就職後のコミュニケーションを可視化して、集団内コミュニケーションの機会を積極的に取り入れる必要性も示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田丸 朋子  (TAMARU Tomoko)  (00634940)	武庫川女子大学・看護学部・講師    (34517)	
研究分担者	山口 晴美  (YAMAGUCHI Harumi)  (00750506)	武庫川女子大学・看護学部・助教    (34517)	
研究分担者	清水 佐知子  (SHIMIZU Sachiko)  (50432498)	武庫川女子大学・看護学部・教授    (34517)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関